



国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共にYMCAに仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立90周年の恵みの中、YMCAと共に未来を開く」

“Blessing of club 90th anniversary, open the future with YMCA”

<今月の聖句>

押川 幸男

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」

(コリントの信徒への手紙一 12章 26節)

今月のひとこと

『横浜の原爆回避記念日?』

松島 美一



朝から空襲警報が発せられた。学校は休みなので、小学5年生の私は疎開先の葉山の家で敵機来襲の様子をラジオで聞いていた。

1945年5月29日のこと。葉山の家には東京から疎開の私の家族と川崎から来た伯父一家がいた。伯父一家の家財道具はこの日川崎から荷馬車で運ばれてくる予定だった。

この年の3、4月には東京、川崎の他、全国の主要都市が空襲で焼け野原となっており、横浜のみほとんど無傷であった。米軍機は横浜を避けているように人々の目に映っていた。

しかし5月末のこの日は違った。昼間、長時間に渡り、横浜は爆弾、焼夷弾の標的となり、市街地の大半が焼土となった。伯父一家の荷物が葉山に届くことはなかった。

しばらく後には、葉山の小学校に横浜から火傷痕のある子供が編入してきた。この横浜大空襲の様子は今年のYMCA会員大会でも語り部中島智子氏によって生々しく伝えられた。

なぜ横浜の空襲は遅れたのか。ウィキペディアには一つの情報が載っている。「米軍は当時原爆を完成しており、初使用がその威力を見せつけるため候補地の大規模空襲は控えていた。しかし前日の会議で横浜が候補から除外されたため、この空襲が実行された。」

この情報が真実なら、横浜に原爆投下という可能性があったことになる。5月29日は横浜の原爆回避記念日でもあるのか。



<2021年4月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 10名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 9名 ゲスト 1名 合計 19名	83% (メーキャップ 0名を含む)	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円
		前月修正 出席率 %	

<5月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
13	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
29	土	14:00	横浜 YMCA 会員総会	オンライン ライブ配信

「第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 4月8日(木) 18:30~20:15
場所 : Zoom 例会
出席者 : 青木、秋元、伊藤、大高、古賀、齋藤、佐竹、田口、古田、松島

ビジター: 山田公平(卓話者、宇都宮)、伏木康(札幌)、山下真(十勝)、藤井寛敏(東京江東)、板崎淑子、千葉裕子、吉田慧美子(千葉)、日下部美幸、徳沢洋子(厚木)

齋藤ワイズの司会ではほぼ定刻に開始。古賀会長による開会点鐘と挨拶のあと、ワイズソング、ワイズの信条の唱和。古田ワイズによる聖句の朗読とお祈り。その後古賀会長によるビジターの紹介と横浜クラブ出席者の紹介。

今例会のメインイベントは元日本 YMCA 同盟総主事の山田公平ワイズによる「YMCA の今後、ワイズの今後」と題する卓話。山田さんの40年間のYMCA生活の中で一番の関心事は福祉、特に高齢者の福祉の問題だったという。東京YMCAから栃木YMCAに出向した際、自分の理想とする老人ホームを作りたいと考えた。それには巨額の資金が必要であった。行政からの補助金を除く、残りの資金は募金で資金調達することになった。その時、宇都宮ワイズメンズクラブが援助してくれた。全国のワイズを訪問し協力を依頼。巨額の資金を調達できた。その時のワイズの活動に感動したことは今でも忘れられない。

YMCAにとってワイズは応援団として是非必要な団体と感じた。しかし、現在、これをスタッフでどれだけ共有できているか分からない。YMCAを離職した時、YMCAとワイズの関係性を深めるのが自分の使命と考え、YMCAとワイズの橋渡しの役割を果たすリエゾンを務めている。

YMCAが行うプログラムを他の団体の同種プログラムと差別化し、ブランドを確立するためにYMCAとワイズの協調は有効である。そのために、YMCAのユースのエネルギーをワイズが支える仕組みを作ることが必要である。

YMCAでは若者の力を可視化するためユース・エンパワメント・プログラムが世界的にも展開されている。例えば気候変動への長期戦略を訴える、若者たちの社会活動として多くのアイデアが提唱され、プロジェクトとして推進、世界YMCA同盟が資金手当てをしている。

このような若者が何をしようとしているのかを見える化し、支援していくワイズであって欲しい。YMCAはこのようなプロジェクトで成功体験を積んだ若者を、ユースリーダー、レイパーソンとして活用していく。ワイズは何かシンボリックな

活動に取り組み、若者を育て、若い層をワイズに取り込んでいくことが必要だ。

卓話の最後に、感想を求められたビジターの藤井寛敏ワイズが「ワイズにもユースクラブがあるが実際には休眠状態になっている。クラブを作って継続していくのは難しい状態だ。」と話されていたのが印象的だった。

卓話の後はビジネス。お二人の新規入会者の紹介があった。お一人は第4回日本語スピーチコンテスト以来、ずっと審査員長を務めてくださっている秋元快美晴ワイズ、もうお一人は、3月末で退職された奥園さんの後任である青木英幸担当主事である。

例会は、5月例会の卓話者を秋元ワイズにお願いすることを決定して、ほぼ定刻に閉会した。

「第3回東日本区役員会報告」

古田 和彦

第3回東日本区役員会は4月10日(土)18:00~22:00 Zoom会議で行われた。

主な点は次の通り。

- ・第3号議案 2021-2022年度東日本区理事方針の件 承認
*理事主題 私たちは次の世代のために何ができるか?

“Think for the next generation.”

絆を深める時

“We are stronger together than we are alone.”

- ・第8号議案 東日本区法人格の取得および一般社団法人定款制定の件 承認

*これにより、各クラブの活動は特に異なることはなく、従前と変わらない。

- ・第9号議案 沖縄クラブの西日本区への転籍の件 承認

- ・第12号議案 ハンドブック&ロースターの発行方法・掲載内容・作成管理手法を変更する件 承認

*従来の冊子による発行は行わず、PDF形式とする。併せて、掲載内容を変更し、会長以外の会員情報については氏名、連絡手段・連絡先(Eメール、電話、ファックス)のみとする。作成管理に当たっては区書記からクラブ会長に上記内容の入力フォームを提供し作成に当たる。なお、氏名検索等現在ある利便性を保つための工夫は今後検討する。

- ・その他、中間決算と監査報告、次年度行事予定、次年度会計予算案、第26回東日本区大会ホストクラブ立候補(甲府21)、ワイズメンズクラブ創設100周年記念行事兼東西日本区25周年記念行事開催、Change!2022会計中間報告等が承認された。

「第3回部評議会報告」

伊藤 誠彦

日時 : 2021年4月17日

会議方法 : Zoomによる開催

出席者 : 部評議会構成員28名(内、委任状11名)

内、横浜クラブ : 伊藤、大高(委任状)、古賀、古田

第3回評議会は、定刻に開始。古田部長による開会点鐘、ワイズソングは割愛し、ワイズの信条を全員で唱和。奥園さ

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

んの後任の阿部部担当主事（厚木クラブ）による聖書朗読と開会祈祷。古田部長挨拶に続いて伊藤部書記により定足数の確認を経て議事に入った。

今評議会の主な議案は次期の次期部長選出と部則の改訂。

次期部長（古田部長の後任）は若木一美ワイズ（横浜つかクラブ）であるが、次期の次期部長（若木次期部長の後任）に小松仲文ワイズ（厚木クラブ）が選出された。

部則の改訂については、その必要性が第2回部評議会で指摘され、新しく組成された「部則改正委員会」にて検討されてきたものであり、その結果が第3回部評議会に提案され承認された。新部則及びその施行細則は4月17日より施行されることになった。

第3回部評議会の詳細は別途作成されている部評議会議事録を参照ください。評議会議事録、新部則を希望される方は、古田部長または伊藤部書記あてご請求ください。

「横浜中央YMCAキックオフミーティング報告」

青木 英幸

4月2日（金）18:00~19:30にオンライン（Zoom）による横浜中央YMCAキックオフミーティングが開催されました。横浜中央YMCAに連なる横浜中央YMCA運営委員、横浜ワイズメンズクラブ、横浜中央YMCAユースリーダー、横浜中央YMCAスタッフ（健康教育・語学教育・専門学校・アフタースクール）、中区子育て支援拠点のんびりんこスタッフ、AIDS市民活動センタースタッフの総勢50名の方々にご参加いただきました。

主な内容

1. 開会礼
2. 2021年度の開始にあたって大高館長よりメッセージ
3. 参加者ご紹介
4. グループ・ディスカッション
5. グループ発表とまとめ
6. 閉会祈祷

グループ・ディスカッションでは、地域に連なる人々と共に働くことを全体テーマとして、Zoomのブレイクアウト機能を用いて10名ずつ5グループに分かれ、YMCAに連なる多くのボランティア、ユースリーダー、スタッフが共に働くことの意義を理解し、そこから創出できる活動の具体的なアイデアについて意見交換をすることで、新たな気付きの場となったみたいです。コロナ禍にあり、オンラインで多くの方々とつながる機会を持つことができたことを感謝いたします。

横浜クラブ参加者：伊藤、古賀、古田ワイズ

「近況：変わるもの変わらざるもの」(その1)

大高 治



「波打つタン板を丸めたような大きな缶に入ったオレンジジュース」の話をする時、妻は野坂昭如（作家、歌手、作詞家、タレント）の小説「アメリカひじき」のような話だという。

終戦の日の夕暮れ時、米兵の居た捕虜収容所に米軍機から

食料品や日用品が落とされました。収容所の周辺に落ちたものは住民に拾われ、その中に黒いちぢれた糸くずのようなものがありました。「アメリカ人もひじきを食べる！」と驚きながら、何度も煮込んでみました。汁は段々薄くなったが食べられません。紅茶だったことが分かったのはそれから3日後のことです。庶民のアメリカ文化との出会いでした。

終戦の翌年（昭和21年）の4月、私は国民学校に入学しました。数か月後給食が始まりました。近くの農家からの野菜を主とする味噌汁でしたが、米軍の払い下げという脱脂粉乳を溶かした牛乳やオレンジジュースも出ました。「払い下げが不足したので、今日はチョコレートだ」と棒状のチョコレートのこともありました。口の回りをべたべたに汚しながら半分は家に持ち帰り、妹や弟に分けたのでした。農村地帯でも米が十分にある家は少なかった時代です。皆本当はご飯が欲しかったのです。

私たちは、自己製の食器入れにお椀やお茶碗を入れて通学し、その食器にジュースも注いでもらうのです。当番の子供2~3人で注いで回ります。当時の写真を見ると、疎開の生徒も居て1クラス74名でした。注ぎ終わると昼休みが終わってしまうほど、時間がかかったのは生徒数が多かった上に、缶に小さな穴しか開けられなかったのです。プツンと三角の穴をあける道具は何処にもなく、5寸釘と金槌が回って来て、先生が穴を開けたのです。ジュースはチョコチョコとしか流れ出ません。

それから20年、ニューヨーク駐在を命じられました。食料品や日用品は、その頃まだ日本にはなかったスーパーマーケットで買い、大きな紙袋を小脇に抱えて帰るのです。何か月かが経ち、あの巨大な缶のオレンジジュースのことを思い出しました。「あれは何処かにあるはず」とスーパーに行く度にジュースのコーナーを見渡しました。だが、むき出しの波打つ缶は何処にもありませんでした。

ある雨の日、何時ものように買い物をして紙袋を小脇に抱え、傘を差し、帰路につきました。下宿のあるコンドミニウムの前で、雨に濡れた紙袋から缶ジュースが弾け落ちました。その弾みで回りの紙が剥がれたのです。何と！むき出しの波打つ缶が飛び出したではありませんか。スーパーにはもっと大きい缶がありました。ああ！あれが20年前あんなに大きく見えたのだ！と、波打つむき出しの缶を見つめてしばし茫然としたのでした。

この頃既に低カロリー食が中流のアメリカ人には注目され始めました。ある時、部長職のアメリカ人を日本レストランに招きました。刻んだ肉料理が出て来るや、「Oh! Japanese Steak, low calorie, very good」と言う。折角招待したのに、

「Low calorie, very good」はないだろうとムットしました。

「日本はカロリーの摂取量を高めなければならない」と中学で習ってまだ10年。「Low Calorie」の料理を振舞うのは失礼です。美味しいものは適度にカロリーが高いはず。日本で肥満が問題になるのはそれから30年後のことです。率直なアメリカ人、皮肉を言うことはないと思いつつも、「Japanese food, low calorie, very good」は「波打つ缶のオレンジジュース」と共に、いつまでも私の耳と目から離れないのでした。私にとってのアメリカ文化との遭遇でした。

（大高さんの近況の後半部分は6月号に掲載予定です）

「自己紹介」

秋元 元晴



2017年3月まで28年間恵泉女学園大学というキリスト教主義の小さな女子大で日本語学および日本語教育を教えてまいりました。現在も非常勤講師として週1日、大学に行っております。要領が悪いので、これまでとても忙しくしており、仕事以外

のことはあまり考えたことがありませんでした。

しかし、70歳を迎えるにあたり、ふと世の中のためになることをしてみたいと思うようになり、ワイズメンズクラブのことが胸裏をよぎりました。私はクリスチャンではないので、ワイズメンズクラブは入会できないと思っていたのですが、思い切って古賀会長にご相談し、横浜クラブの会員にいただき、大変ありがたく思っております。

日本語教育に携わっておりましたので、その関係で海外にもずいぶん参りましたが、果たして私のやっていることが海外の学生や教師の役に立っているのだろうかと何度も思ったことがあります。日本語や日本文化・社会を学ぶ外国人が本当に必要としていることは何なのか、何が私にできるのかと考えました。まだ、回答は出ておりませんが、横浜クラブのみなさまとともに活動することを通して、自分にできることが見つかると、少しでも貢献できればと考えております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時：4月22日(木) 17:00~18:00 (Zoom 例会)

出席者：青木、伊藤、大高、古賀、古田

協議・確認・検討事項

(1) 今後の行事予定の確認

(2) 協議・報告事項

① 5月・6月例会の卓話者の予定

・「5月例会」5月13日(木) 18時半 (Zoom 参加)

★秋元美晴ワイズ (横浜クラブ)

・「6月例会」6月10日(木) 18時半 (Zoom 参加)

★卓話は行わず、1年間の活動のまとめ、評価を行う。

② 「東日本大震災10年誌への横浜クラブ寄稿」

・クラブとして寄稿することを決定

③ 「東日本区奈良傳賞」横浜クラブからの該当者はなし。

④ 「女性会員を増やそう」(エクステンション委員会提案)

・性別、人種、信仰、出身国などの違いに全くとらわれない会員の勧誘が基本原則。

・単なる“会員数を増やす”目的の為だけであるなら、それは邪道である。

・「会費を含め、女性が入りやすい環境」の改善が必要。

・横浜クラブにおいては、“メネットとしてワイズに加わりたい方”、“正会員になって活動する方”、全て個人の自由意思を尊重し、強要はしない。



担当主事 青木 英幸

5月29日(土)に横浜YMCA 会員総会が開催されます。今年度の会員総会は書面にて決議をいただく形式で行います。なお、各議案はオンラインで説明させていただきますのでご視聴ください。主な議案は、2020年度報告(事業報告と決算報告)、2021年度計画(今年度の方針計画と予算案)、表彰(YMCA 運動に尽くされた方への感謝を込めて記録として残す「奉仕の書」、ユースリーダーの活躍に対する「奉仕賞」、会則の変更、となります。

会則変更は、新型コロナウイルス感染防止の対応で2年続けて書面決議の形となりましたが、このような開催方法を形として定めておくために会員総会の書面決議についてと、常議員会のオンラインシステム(Zoom等)を用いた会議の在り方について記載することが変更案となり、今できる方法を形として定義しておくことを目的としております。

総会構成員のご案内が届いた皆様におかれましては、書面による決議へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

5月例会プログラム

日時：5月13日(木) 18:30~20:15

場所：Zoom 開催

司会：古田 和彦

- 1.開会点鐘及び挨拶 古賀会長
- 2.ワイズソング・ワイズの信条 全員
- 3.今月の聖句 押川ワイズ
- 4.ゲスト・ビジター紹介 古賀会長
- 5.卓話 「一日本語教育者から見た『聖書』の日本語」
秋元美晴ワイズ
- 6.ビジネス・報告 古賀会長
- 7.Happy Birthday 齋藤 宙也、佐竹 博
- 8.閉会点鐘 古賀会長

例会報告 古賀 健一郎

6月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
1	火	19:00	第91回 Y-Ys 協議会	Zoom
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
12	土	13:30	ワイズ東日本区大会	Zoom
19	土	15:00	第4回部評議会	Zoom
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080